

マイクチェック

OK

特務捜査班
班長 朱鷺

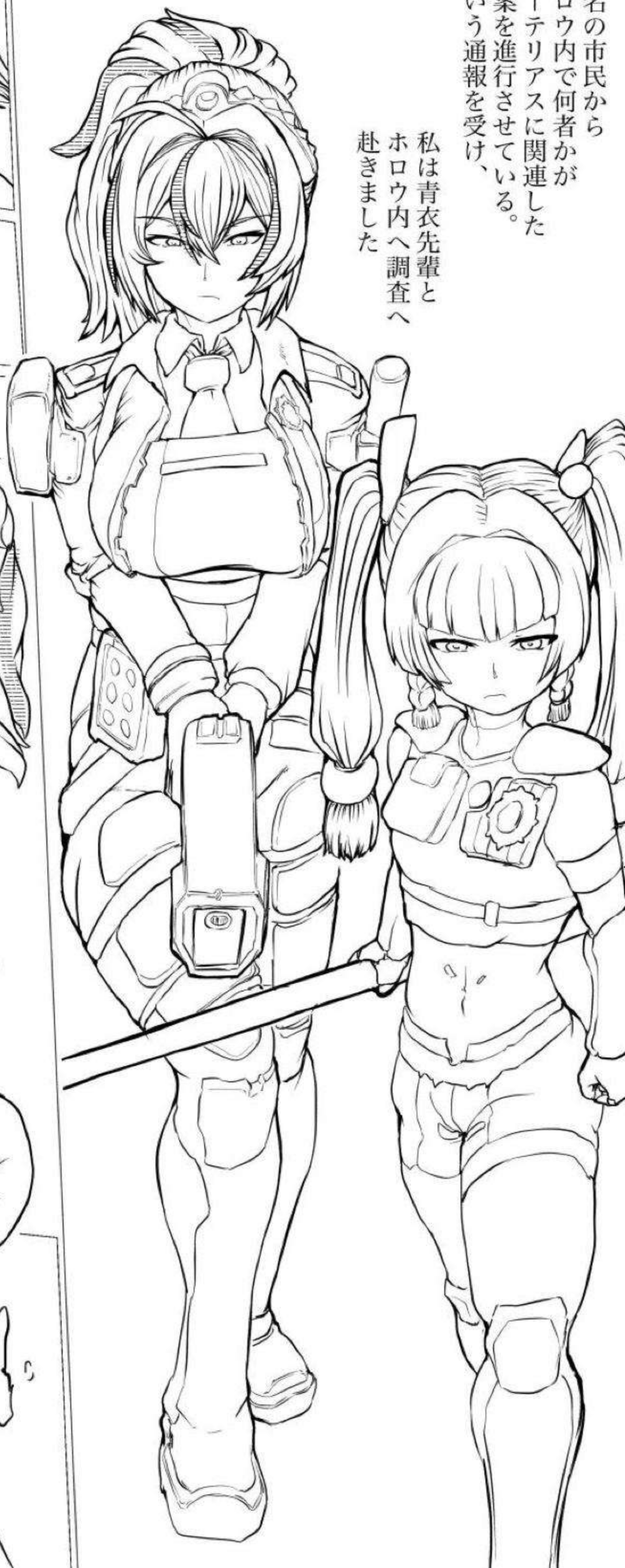
これより、
万一に備えて
私に発生した事象および

対ホロウ6課との
協働プロジェクトへの
経過報告も兼ねて

記録を行います

匿名の市民から
ホロウ内で何者かが
エーテリアスに関連した
事案を進行させている。
という通報を受け、

私は青衣先輩と
ホロウ内へ調査へ
赴きました



6課の計画区域へ
迷い混んでいたようです

その際、
我々は知らぬ間に



障害排除中の不意
をつかれた私は

先輩と引き離されて
しまいました



私を別区画へ
引きずりこんだのは

見たこともない
エドテリアスー

のちに、私の…
…いえ

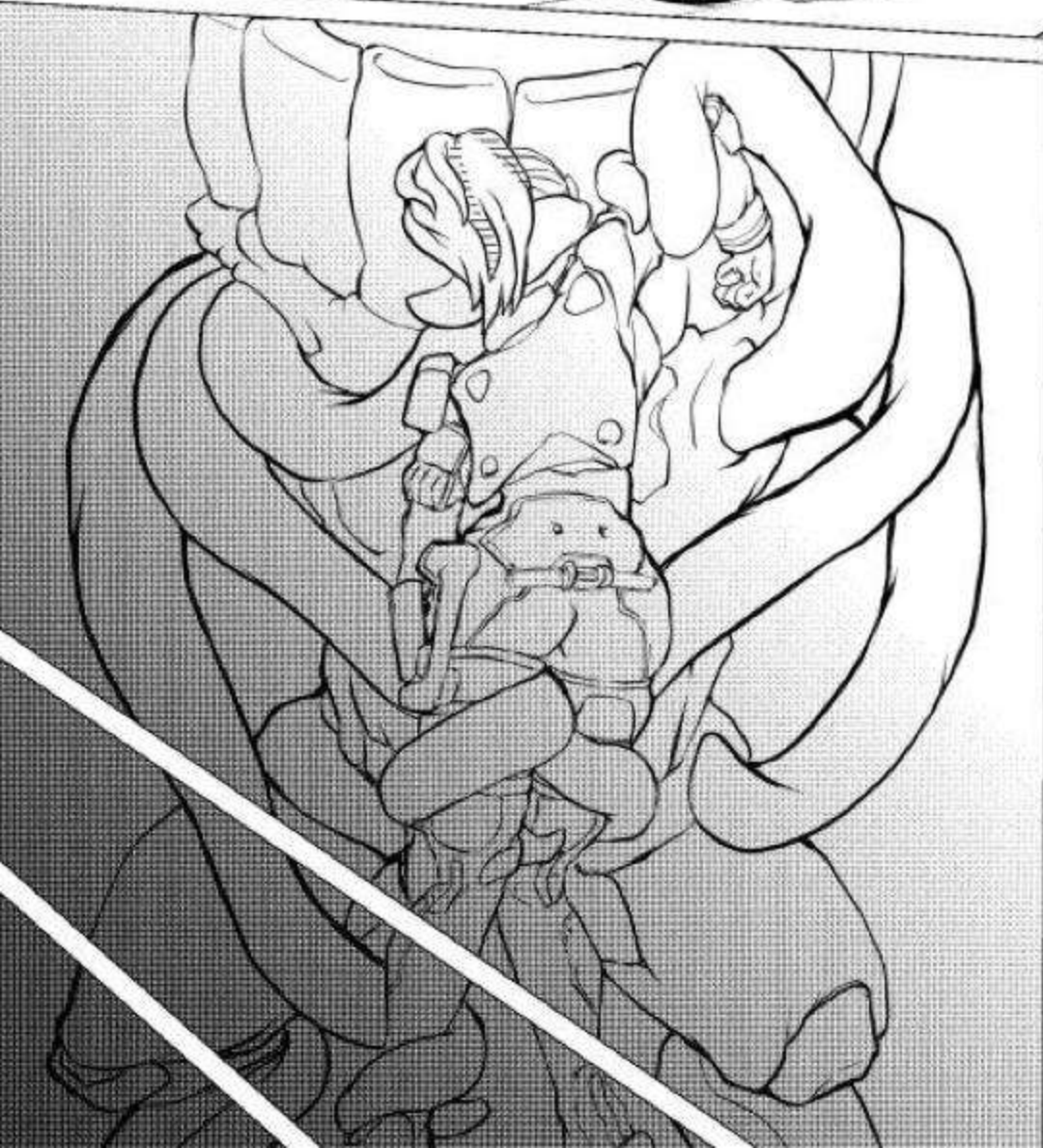
実験体「E2」という
特殊な個体でした。

この時
私の抵抗が思ったより
激しかったのか、

実験体「E2」は
奥の手を
使用しました



強制発情剤
ある種の媚薬を
注入したのです



それから数時間は
抵抗も虚しく、
強烈な快感に
溺られていました

実験体は
注入した媚薬を、
更に敏感な部分に
刷り込み

愛撫し、

ほじり尽くして、

ドロドロに
溶かしていききました

そうやって
抵抗できなく
した後

一番強い刺激を
一気に与え、

理性を粉碎しようと
してきました



トロトロの状態で
一番弱い所を
攻め当てられた私は

ずっと
絶頂しながら
泣き叫ぶ事しか
できませんでした

そうこうしてる
うちに、チヨツキも
外されてしまい

胸の開発まで
始められてしまいました

この……っ！

ふん！！

「矢報いるために、
太ももで触手を
挟んでやりまじだが、

よし……！

時は既に遅すぎ、

大きな種付け管が
観念しろ、と
ずしつと置かれたのを
覚えています。

!?





壊れてしまう、
という恐怖を感じた事を
覚えています。



あつという間に
両足とも捕まり、
種付けやすい姿勢に
されていきました。



一突きごとに
頭の中で火花が弾けとび

引き出される感触が
膣内全てを擦り上げて
イキ狂うしかできません

私の一番奥は
解ぐに
こじ開けられて
今しました

そして、
一際強く

奥底まで

突き入れられました

チュ
ガクウッ!

私は千切れかけた意識の中待つ

やめっ

必死で触手を抑えこれ以上

やぶけっ♡

自分の中を掻き回されまいと

しました♡
ぢあうっ♡

ですが、むしろお腹に力が入って形がわかってしま

なりました♡



そんな時触手を抑え込んでいた手のひらに

ズボッ

水飴のようなものが触手内部を移動する感触を感じました

赤ちゃんの素だ、と本能的に察しましたやっ

やだっ

懇願しても聞いてくれない相手ありません

ズボッ

ズ

やめてっ

あつと言っ前ににじみ開けて

そんなのっ



私の中で弾け

今までの比ではない
強烈な絶頂：

パチパチと頭の中で
大切な何かが灼けついていく
のを感じました

この性液
発情を排
わまり媚薬の類が
大量に含まれていたそうです

意識が飛んでしま
いしょうがない事だと
思われます



6課に保護された時
すでに私は
妊娠しており、

この仔を出産する以外に
処置のしようが
ありませんでした

私の子宮内で
胎児は急速に成長
したため、

あのエーテリアス——
実験体「E2」の母親である
柳副課長の指導を受けました。

私は、お腹の仔に
嫌悪感を抱いていません。

それどころか
愛情に似た感覚を
この仔に感じていると
思います。

6課との
共同プロジェクト

対エーテリアス捕食個体
繁殖計画

この計画への参加を
決めたのも
それが理由です。



以上を持って
記録終了とします。

もう、
時間が来ました

私は、

これより
ホロウに入り、

彼、の……

エーテリアスの、

子供を、産みます





頑張ってますね E2

でも、
少し意外でした

アナタが
こんなに早く

朱鷲さんを
産・気・付・か・せ・た・が・る・
なんてね



あらあら、
でも上手く行っ
てないわねえ

E2?

こう言う時はね

挿して迎えて
あげなさい



!?



柳副課長

なにを









あ……

あは……♡

あらあら、

もう
次を種付け？

よほど
気に入ったのね

優しくして
あげるのよ？







数週間後

青衣さん！

朱鷲さん
戻ってきたって…

ん…

あー

「戻って」、は
来ておる、な…

…え？

…のう、
パエトリシ

悪いことは言わんから
会うのは止めておけ

もう、朱鷲は…

お主らと
住む世界が違うんじや…

